

イチゴポット育苗の培土, 定植時期について

佐藤照美・佐藤 如・*利光泰郎 (大分県農業技術センター・*日出農業改良普及所)

SATO, T., H. SATO and Y. TOSHIMITSU: Soil and Planting Time for Raising Seedlings of Strawberry in Pot

イチゴの花芽分化を確実に促進させて, 早期多収をねらったポット育苗の普及が著しいが, 培土の種類及び定植期の早晚が, 生育, 収量, 品質に与える影響を検討したので報告する。

1. 材料及び方法

試験-1 培土の種類について

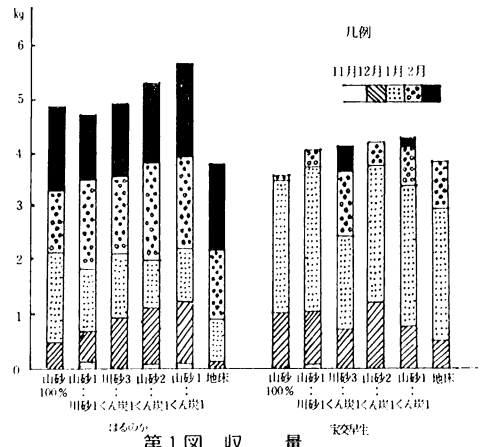
品種は“はるのか”“宝交早生”を供試し, 山砂100%, 山砂1:川砂1, 山砂2:くん炭1, 同1:1, 川砂3:くん炭1の割合で混合した培土を用いて, 1981年6月10日に, 雨よけハウス下で4号黒色ポットに挿し, 育苗中にポット当たりN成分で60mgを“はるのか”で7月28日, “宝交早生”で8月8日までに施用した。対照として7月10日に地床に仮植し, 育苗中N成分で株当たり30mgを施用した。

試験-2 定植期について

品種は“宝交早生”を供試し, 1980年6月16日に山砂1:川砂1の混合培土を用い, 自然条件下で4号黒色ポットに挿し, 育苗中にポット当たりN成分で70mgを施用した。対照として7月9日に地床に仮植して, 育苗中N成分で株当たり30mgを施用した。地床育苗は, 8月中旬と9月上旬に断根を行った。定植は, ポット育苗で花芽分化確認後の9月17日, 同22日, 同27日に行い, 地床育苗は分化初期の9月18日に行った。

2. 結果及び考察

試験-1 育苗中の生育は山砂2:くん炭1, 同1:1, 川砂3:くん炭1が優れ, 山砂100%, 山砂1:川砂1はやや劣った。しかし, いずれの培土も慣行育苗に勝った。培土のpHの動きは, くん炭混合培土で大きく, 物理性変化は, 孔隙率, 有効水で山砂1:川砂1, 川砂3:くん炭1が低く, 山砂2:くん炭1, 同1:1は適正数値を示した。花芽分化は各区とも大差はなかったが, 出蕾で山砂100%が最も早くそろい, 川砂3:くん炭1は, 山砂1:くん炭1とともに遅れや不そろいが見られた。花数は, “宝交早生”で山砂2:くん炭1が最も多く, 川砂3:くん炭1が少なく, “はるのか”では, 山砂1:くん炭1が多く, 川砂3:くん炭1が少なかった。収量では“はるのか”で山砂2:くん炭1, 同1:1が優れ, “宝交早生”では, 山砂2:くん炭1が優れた。慣行育苗は初期収量で低かった。



以上の結果から, ポット育苗の培土として, 理化学性, 早期, 全期収量, そろい等から山砂2:くん炭1の混合培土が適正であると思われる。

試験-2 定植後の生育は定植期が早いほど優れ, 出蕾, 開花, 収穫開始も同様に定植期が早いほど早まる傾向を示した。特に, 年内収量は花芽分化直後定植に比べて5日後定植で5%, 10日後定植で17%の減収がみられ, 果実の大きさも, 定植が早いほど大果生産がみられた。品質に対する影響はあまり見られなかったが, 1月~2月の収量は定植が早いほど少なく, わずかではあるが中休み現象を呈した。

定植	月	11	12	1	2	3	収量	株
9月17日							9276g	40株
9月22日							8799g	40株
9月27日							8854g	40株
9月18日							9212g	40株
地床慣行育苗								

第2図 定植期が収量に及ぼす影響(40株当り、3月20日まで)

以上の結果から, “宝交早生”のポット育苗における定植期は, 花芽分化促進を養分吸収の抑制による草勢低下で行っているが, 分化後は速やかに草勢回復をはかり, ポット育苗効果を高めるために定植を早めることが望ましいと考える。